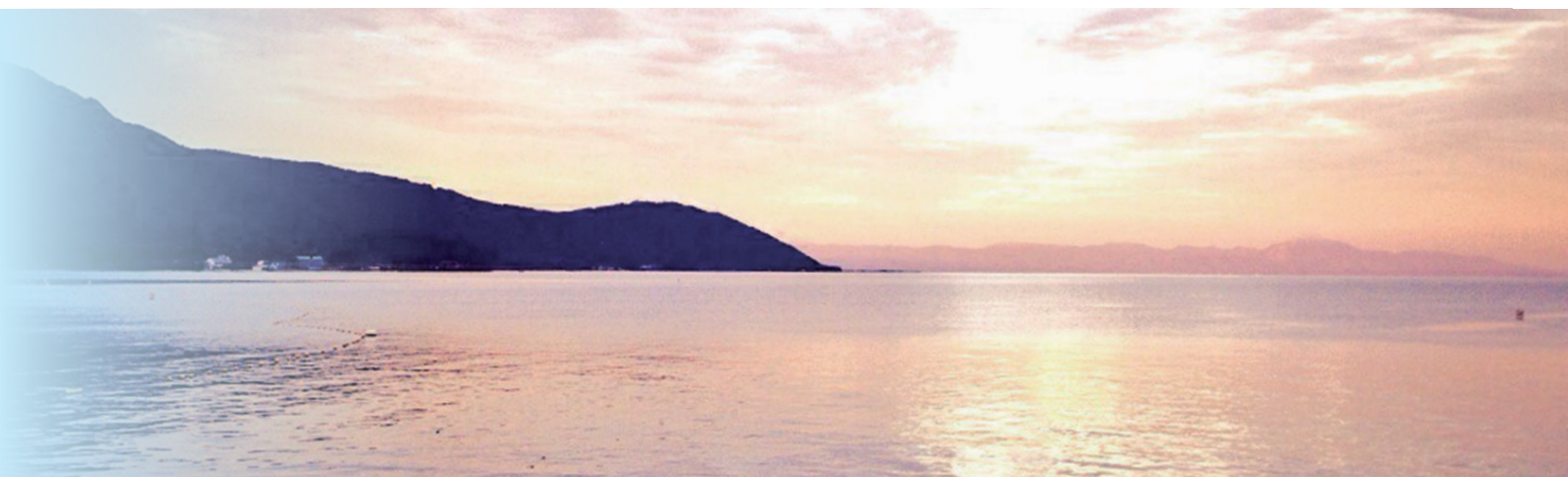


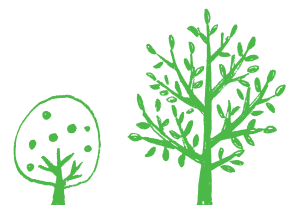


SPIRAL REPORT



スパイラルレポート





協同して創ろう

笑顔あふれる暮らし



稲刈り体験



東近江市 見守りおむつ宅配便



ピワマスの学習と試食・放流体験

もくじ index

ふだんの暮らしへの役立ち

宅配事業	3
店舗事業	4
夕食サポート事業	5
サービス事業	
介護保険事業	6
共済事業	
食品安全・品質保証の取り組み	7

地域づくりへの参加

地域づくりと見守り活動	9
被災地を応援する取り組み	10

世界と日本社会への貢献

県内農業・日本農業の発展に向けて	11
平和の取り組み	12

元気な組織・健全な経営づくり

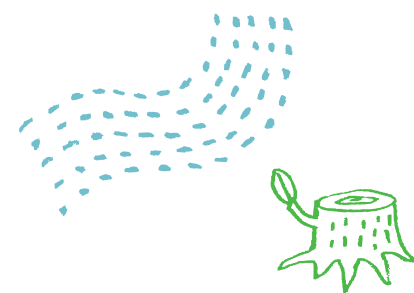
さまざまな組合員の参加の場	13
「食」を大切にする活動	14
働きがいのある職場づくり	15
ルールに基づいた運営	16

環境の取り組み

さまざまな環境活動	17
事業活動における環境報告	19

コープしがの概要

コープしがの概要	22
----------	----



たべる*たいせつ親子クラブ (ぜぜ店)



春の商品大交流会



コープの森余呉 森林整備ボランティア

スパイラルレポート2018の発行にあたって

組合員の暮らしを豊かにしたいという
願いに応え続けながら、
地域社会の一員としての役割を自覚し、
事業・運営をすすめて参ります。



日頃より、コープしがの事業と活動を支えていただき誠にありがとうございます。

2017年度、「協同して創ろう、笑顔あふれる暮らし」を基本方針として掲げ、組合員の事業・活動への参加を強め、「暮らしの願い」を協同の力でかなえていくことを重点にすすめてきました。

宅配事業・店舗事業において、生産者との交流や商品の良さを知らせる取り組みにより、利用が広がり、大きく成長した1年でした。利用や活動を支えていただいた組合員の皆様、生産者・取引先の皆様をはじめ関係各位に感謝申し上げます。

生活協同組合は、組合員一人ひとりが手をつなぎあい、暮らしの願いを実現するためにつくった、自発的な協同組織、助け合いの組織です。コープしがは、滋賀県民の豊かな暮らしと人間尊重の平和な街づくりをすすめる生活協同組合として、1993年3月21日に滋賀県内の4つの地域生協が合併して誕生し、今年25周年を迎えました。これを機に、さらに協同の輪を広げて参ります。

私たちの暮らしの中には、一人では解決できないことがたくさんあります。少子高齢化、地域のつながりの希薄化が進む中で、様々な「困りごと」や「心配ごと」が生まれています。

私たちは、様々な機会を通して、家族のこと、子育てや年を重ねることの不安、仕事や親の介護、車に乘れなくなった時の買い物のことなど、様々な困りごとや心配ごとを話し合う中で、つながりや関わりが必要なことを出し合い、コープしがを通じてできることを積み重ねてきました。

私たちの事業と活動は、暮らしと深く関わっています。関わる一人ひとりが想いと願いを寄せ合い、協同組合の役割を自覚し、事業・運営をすすめて参ります。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

2018年6月
生活協同組合コープしが
理事長 西山 実

宅配事業

● 安全・安心の商品を便利にお届けします。

宅配は県下9カ所の宅配事業センターから、毎週約12万世帯に安全安心の商品を便利にお届けしています。

注文して商品が届くのは1週間後。今の時代ちょっと遅いのではと感じておられる方もありますが、利用してみるとじっくり考えて注文して、届くまでが待ち遠しいというのが暮らしのサイクルに合っていて、年々利用者が増えています。しかも子育て世代、高齢者世代、お勤めで忙しい家庭などの暮らしを様々な商品やサービスで応援しています。

● 豊富な品ぞろえ

定番の食品「エコー」、県内商品「ばくばくエコー」、お取り寄せ、日用品や雑貨、洋服まで、暮らしに必要な商品をたくさんのカatalogの中から選べます。



エコー



ばくばくエコー



よりすぐり



スクロール



くらしのパートナー

● 選べる注文方法

手書きの「注文書」、インターネット「eフレンズ」、コールセンター「電話・FAX」と自分に合った注文方法で注文。併用もできて便利です。

注文書



eフレンズ



電話



● 暮らしにあったお届け方法

● 共同購入（グループ届）

3人以上まとまれば代表の方のお宅に届けます。ほとんどの商品が個人別に分かれていますので仕分けも簡単。コミュニケーションの場にもなっています。手数料は不要です。

● 個配

個人のお宅までお届けします。受け取り時にご不在でも気兼ねなく利用できます。安心シールやセーフティカバーの使用で安心です。手数料が必要です。

● ステーション購入

地域の酒屋さんやフリーニング屋さんなどの「提携ステーション」で商品を預かってもらい、お勤めの帰りなどに引き取りに行くシステムです。手数料は不要です。

● 暮らしをサポートするサービス

● 赤ちゃんサポート

満1歳未満のお子さんをお持ちの母さんをサポート。毎月偶数週にサポート商品を無料でお届けします。個配の方は手数料が「ぬくもり割引」よりさらに安くなります。（ご利用者：約3,400人）

● ぬくもり割引

個配の配達手数料を割引くサービスです。対象は、65歳以上の方、3歳未満の子育て中の方、障がいのある方やそのご家族です。（ご利用者：約33,000人）

● わくわく便

離れて暮らすお子さんなどに生協商品を宅配便で届けるサービスです。生協商品を子どもに食べさせたいというお母さんの思いから生まれました。（登録者：約2,900人）

● 個配メールサービス

商品をお届けした時の状況を離れて暮らすご家族にメールでお知らせします。



店舗事業

● 新鮮な商品と品揃えの良さにこだわっています。

コープぜぜ店、コープもりやま店と、2017年10月にオープンしたコープかたた店では、「おいしさ」「楽しさ」「あったかさ」があふれるお店をコンセプトに、組合員の声に応え、新鮮な商品と品揃えの良さにこだわっています。



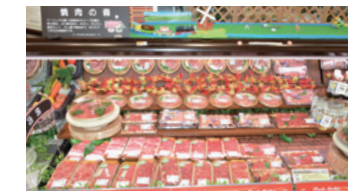
コープかたた店

● 提案型の売場、簡単手間なし商品の充実。

毎週2回、楽しい食卓がイメージできる和・洋・中の料理メニューを提案する売場を作り、新しい食べ方やおいしい食べ方の提案をしています。また、総菜を中心に便利な手間なし商品の充実をすすめています。



おかずバイキング



焼肉コーナー



地場産野菜コーナー

● 組合員の店舗利用をサポートする取り組み

【お届け便】

お届け便は、電話でご注文された商品をご自宅にお届けする「お買い物代行」と、店内でお買い上げされた商品をご自宅にお届けする「お買い上げ配達」の2つがあります。お買い物に出にくい方、ご高齢の方に重たい物などを届けてもらい助かっていますとうれしい声をいただいています。



お買い物代行

【お買い物送迎サービス】

お買い物に行きたいが手段がない方への新たなサービスとして、お買い物送迎サービスの取り組みをコープぜぜ店で開始しました。周辺地域は坂道が多く、高齢化（半径1km内の75歳以上の構成比は10.25%）も進んでいます。利用された組合員からは「坂道が多いので、これまではタクシーを利用していたので助かるわ」「免許を返納したので、このサービスを開始されてほんとに助かる」などのお声をいただいています。



送迎サービスの利用者

夕食サポート事業

● 夕食サポート事業「つながり」は、笑顔の食卓をサポートします。

夕食サポート事業「つながり」は、高齢者、一人暮らし、共働き、育児などで毎日の夕食作りに困っておられる方に栄養バランスを考えた“おいしい”夕食弁当をお届けし、楽しく健康的な食生活を応援しています。2017年度からデイサービスのご利用者などは週3・4日の配達対応もできるようになりました。

夕食サポート「3つの特徴」

1. 当日の朝から作ったお弁当を、冷蔵で夕方6時までにお届けします。
2. 栄養バランスを考えた健康的な献立。
薄味仕立ての日替わりメニューが充実しています。
3. 毎日（月～金曜）、夕食サポーターが笑顔で手渡しします。
（お留守の場合は保冷箱で）。



【ご利用者の声】

- ・味はととてもよく、注文してよかったです。
- ・産後の体調管理と家事の軽減に利用しました。飽きない多彩な献立と味、カロリーを考えたメニューが気に入っています。
- ・あまり好みでないおかずも食べることができ、バランスがとれるのが良いと思っています。
- ・いろいろと努力されて改善されてきていることが分かります。

【健康献立食】

お体の状態にあわせて3つのコースから選べます（冷蔵の宅配便でお届け）

- ・「やわらか食」（ふつう食）：健康な高齢者の方に
- ・「介護食」（きざみ食・ムース食）：
噛む力・飲み込む力の弱い方に
- ・「健康管理食」（カロリー調整食・たんぱく調整食）：
糖尿病や腎臓の負担が気になる方、透析をされている方に



健康献立食

サービス事業

● 暮らしを便利に、快適にするサービス事業

安心して利用できる商品やサービスを提供し、暮らしの便利さや快適さを広げていきます。サービス事業で紹介する商品やサービスは、職員が事業者を訪問してサービスの品質を確認めています。また、「ささえあいサポート」と連携し、組合員さんの困りごとの相談にも対応しています。

取扱いの商品やサービス

- チケット（テーマパーク・食事券・コンサート等）
- 頒布会（手づくりキット・東急ハンズ・日比谷花壇）
- 相談会・学習会等（住まいに関する事など）
- 洋服の青山・はるやま（組合員特典）
- 布団の丸洗い・打ち直し
- 眼鏡市場（組合員特典）
- 振袖レンタル・ジョイフル恵利（組合員特典）
- 畳・ふすま・障子等のリフォーム・新調
- 学習関連（ポピー・スマイルゼミ等）
- 住宅リフォーム・修繕・新築等

- ピアノ調律
- ピアノ買取
- DVD 編集
- 自動車教習所
- レンタル浄水器
- イトマンフィットネス
- 不用品宅配買取
- 宅配水
- 補聴器
- 置き薬

- 車検
- 自動車買取
- 浄水器
- ペット葬
- 引越し
- せんたく便



イトマンフィットネス



エアコン洗浄

介護保険事業

● よりよい暮らしをともにつくる福祉をめざして

コープしがは福祉を「一人ひとりの人が社会的なつながりの中で、よりよい暮らしをともにつくること」と広くとらえ、組合員、地域の方々とともに「暮らしを創造する福祉」をめざしています。



ケアサポートセンターぽこ野洲



ケアサポートセンターぽこ

コープしがとして高齢者を支える介護保険事業を行う「ケアサポートセンターぽこ」では地域密着型小規模デイサービス、ケアプランを作成するケアプランセンター。そして「ケアサポートセンターぽこ野洲」ではヘルパーステーション、ケアプランを作成するケアプランセンターを、それぞれ2事業を2拠点で、より多くの組合員へお役に立てるように取り組んでいます。

デイサービスでは、食を大切に厨房で生協商品を使って一から調理し温かい食事を提供し、利用者さんからも喜んで頂いています。また、野洲のヘルパーステーションでは「その人らしい暮らしを護る介護」を理念に持ち、愛情のこもった言葉、優しさを感じる表情を中心に置き、利用者の気持ちを汲み取った対応を日々行っています。



デイサービスぽこの昼食



デイサービスぽこ



デイサービスぽこ

共済事業

● 組合員の暮らしの安心を広げるCO・OP共済

手ごろな掛け金でしっかりと組合員の家族みんなの保障の中心になりたい。CO・OP共済は組合員の声でだんだんと充実していきます。

2017年度は、『《たすけあい》65歳満期後も手ごろな掛け金で保障を続けたい』という組合員さんの声にお応えして『プラチナ85』が誕生しました。

お誕生日には「おかわりございませんか?」「共済金の請求忘れはございませんか?」の手紙を届けて、請求忘れゼロを目指しています。

2017年度 契約件数：105,520件

共済金支払件数：17,374件（8億2,145万円）



《プラチナ85》ロゴ



お誕生日のお手紙



コープかた店共済カウンター

食品安全・品質保証の取り組み

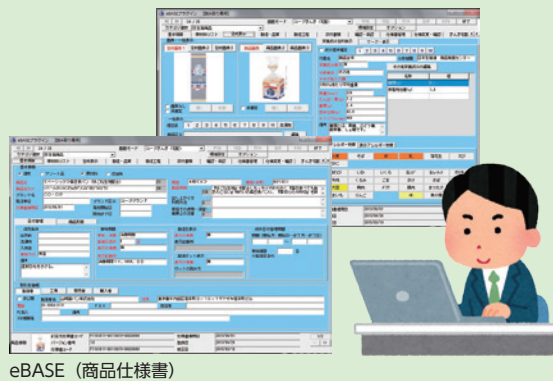
● 原料から食卓までの食の安全・安心への取り組み

宅配のカatalogにはたくさんの商品が載っていて、お店にはさらに多くの商品が並んでいます。どれもこれもおいしそうに見えますね。でも「どんな工場で作られているの?」「どんな原材料が使われているのかな?」「農業は大丈夫?」「食品添加物はどうなの?」「パッケージの表示は信頼できるの?」…。商品を注文するときや購入するときには、気になることもいろいろあります。生協では組合員さんに商品を安全にお届けし、ご利用いただくために次のような安全確認を行っています。

4つの安全確認

① 商品仕様書の点検

取扱い商品一つひとつについて、原材料や食品添加物、アレルギー、製造工程、包材表示など情報を詳しく記載されている商品仕様書を点検します。



eBASE (商品仕様書)

③ 商品の検査

コープきんぎ事業連合の商品検査センター「コープ・ラボ」において、新規で取り扱う時や、お届けする段階などの商品の検査を行っています。



コープラボでの商品検査

● 2017年度商品検査件数

微生物検査	17,269
農薬検査	950
食品添加物検査	806
放射性物質検査	236
動物用医薬品検査	17
アレルギー検査など	146
計	19,424

② 生産・製造工場の点検

農産物の圃場や、食品を作っている工場に定期的にうかがい、栽培管理の状況や工場の衛生管理の状況を点検します。



大津給食センター



有田コープファーム

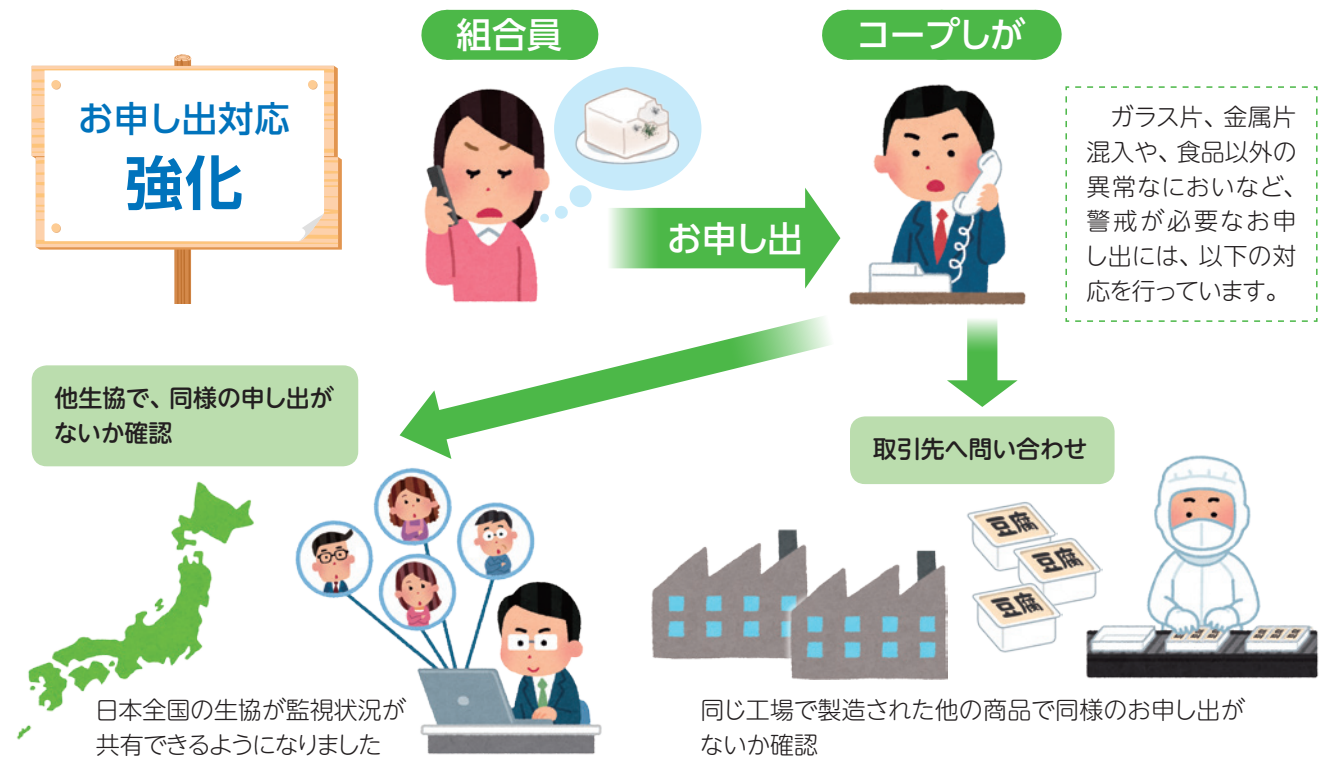
④ お申し出対応

商品に寄せられる組合員のみなさまの意見や苦情を管理して、すぐにお応えできる体制をつくっています。また、お申し出データから商品の品質向上・事故防止につなげています。

お申し出
ご意見

調査して対応

● 生協では異変をいち早く察知する、危機管理対応を強化しています。



危害性、拡散性、緊急性があると判断した場合は、迅速に調査・お知らせ、回収など対応します。



生協が取り扱う輸入果物について

安全点検の流れ

1. 「農薬無散布」で栽培



タイホムトンバナナの産地

2. 取引先の残留農薬検査

3. 国による輸入検査

4. 生協独自の検査



試料のバナナ

サンプリング

遠心分離後のバナナ

分析器

農薬を使用していませんが、生協でも検査を行います。

生産者の顔が見える仕組み

バナナに貼られた生産者番号から、ホームページで生産者のメッセージが見られます。

生産者からの
メッセージ

2017年9月
ホムトンバナナ
調印式



地域づくりと見守り活動



野洲市との協定締結式

大津市との協定締結式



おむつ宅配便

●2017年度のささえあいサポート
件数（分類別）

サポート内容	件数
家事援助（食事作りなど）	1,486
掃除・片付け・模様替え	754
草取り・水やり・庭木剪定	358
子ども見守り・お世話	241
高齢者などの身の回りのお世話	197
ペットの散歩などのお世話	190
その他	120



ささえあいサポート（家具移動）



コープしが基金「竹林を守る会」

●事業や活動を活かした見守り活動

コープしがでは、生協の事業活動を通して、誰もが安心できる地域づくりに取り組んでいます。地域の見守りについては、2017年度新たに野洲市と大津市と協定を結び現在11の市町となりました。滋賀県下全域をカバーしている宅配や夕食サポート弁当の配達業務を通じて、地域や人の異変を発見したときに情報を自治体などにつなぎます。

協定締結の市町【米原市・草津市・長浜市・高島市・近江八幡市・彦根市・愛荘町・甲良町・多賀町・野洲市・大津市（締結順）】

●東近江市の「見守りおむつ宅配便」

コープしがは東近江市の1歳未満の子どもが居る家庭に毎月おむつ等を届ける「見守りおむつ宅配便」の業務を受託しています。おむつ等を配達するのは子育て経験のある専任スタッフ（宅配便メイト）で、子どもやお母さんの健康状態の確認や、悩み事を聞くなど、孤独になりがちな子育て中のお母さんを支援しています。



●ささえあいサポート

組合員同士が「おたがいさま」の気持ちで暮らしを支えあう「ささえあいサポート制度」は11年となり、「顔の見える新しいささえあい」の検討に入りました。産後の家事のお手伝いや、庭の手入れ、留守中のペットのお世話などプロではありませんが、組合員同士の有償の相互扶助制度として実施しています。2017年度は、3,346件のサポートがありました。



ささえあいサポート（家周囲の掃除）

●笑顔あふれるコープしが基金

淡海ネットワークセンターの未来ファンドおうみに設けられたこの基金は、“人と人がつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現を目指す”ことを目的に、コープしが設立20周年を記念して2013年に始めました。2017年度は、「ふあ・ふあ守山」（子育て支援）、「豊臣秀次家臣団屋敷跡の竹林を守る会」（竹林保全・整備）の2団体を支援しています。



コープしが基金「ふあ・ふあ守山」

被災地を応援する取り組み

●震災を忘れない募金

東日本大震災の復興支援活動として、誰でも参加できる支援行動、「震災を忘れない募金（くらし・地域復興応援募金）」を毎月11日前後の週に継続して取り組んでいます。2017年度は、2,117人の組合員から1,274,627円の募金

をお寄せいただきました。募金は、被災地の3つの生協（いわて生協、みやぎ生協、コープふくしま）に分けて送金し、現地での支援活動に役立てられています。

●震災を忘れないスタディツアー in ふくしま

東日本大震災の被災地福島県を、組合員30名と役職員あわせて総勢40名で訪問しました。このスタディツアーは、「被災地の現状を自らの目で見て、現地の方と交流し知り学ぶこと」「滋賀県に帰って被災地の現状と、私たちに出来ることについて、多くの方に伝えること」を目的にしています。ルートは、福島市から川俣町、飯舘村、南相馬市、浪江町、富岡町を巡り、コープふくしまの役員より説明を受けました。

震災ツアー（夕食交流会）



震災ツアー（福島原発を臨む）

●「夜ノ森の桜」植樹と震災を忘れない交流会

福島県富岡町から寄贈を受けた「夜ノ森の桜」をコープしが本部（野洲市）の敷地に植樹しました。この桜は東日本大震災、原子力発電所の事故により町民の避難が続く中、富岡町民の心のよりどころである「夜ノ森の桜」を、避難先や富岡町に心を寄せる人々の近くで美しく咲き続けるようにと、被災地に寄り添った活動を行っている団体などに送られています。植樹した桜を大切に育てて、被災地のことを忘れずに継続して支援していく証とします。また、同日コープふくしまよりお越しいただいた役員2名の方から、「原発事故による放射能汚染に向き合って」と題した報告をいただき、参加の組合員や役職員との交流を行いました。



夜ノ森の桜の植樹



震災を忘れない交流会

●そのほかの支援活動

[大雨・台風被害などへの対応]

2017年7月に発生した九州北部の豪雨災害に対して、組合員に緊急募金を呼びかけ、2,445,275円の寄付を寄せていただきました。この募金は日本生協連を通じて被災地に届けました。また、10月末の台風被害や2018年1月の寒波による被害をうけた生産者11団体に計100万円のお見舞金を、タイのホームトンバナナの洪水被害には10万円のお見舞金を届けました。

[北陸の大雪への対応]

2018年2月に記録的大雪に見舞われた福井県の福井県民生協の宅配は、組合員さんへの商品配達ができない状況となりました。このような状況をうけてコープしがは、福井県民生協に職員を派遣し、配達などの支援を行いました。



九州北部豪雨災害



台風被害の野菜ハウス



福井県民生協大雪支援

県内農業・日本農業の発展に向けて

滋賀県は稲作を中心とした農産物の生産県ですが、県内の食料自給率（カロリーベース）は約50%で緩やかに低下してきています。コープしがでは農産物の持続可能な安定供給を目指して、地産地消・産直提携の強化を進めるとともに、農業体験を通じての食育活動にも取り組んでいます。

● 滋賀県と食・農の協定を締結

滋賀県と『伝えよう「たべる*たいせつ」 滋賀県の健やかな暮らしを支える食と農に関する協定』を結びました。それぞれの特性を活かした事業に取り組み、相互の連携を強化し、県民（組合員）の健康的で豊かな食生活の向上と、滋賀県の農畜水産業の持続的な発展を図ることとしました。

県との食農協定



● 田植え、稲刈り体験の取り組み

県内産直米産地を中心に5つのJAの田んぼで田植え、稲刈り体験をしました。「コープしがが大切にする食育」の実践活動のひとつとして、食について学び体験し健康に生きる力を育みました。



田植え体験



稲刈り体験

● 「ファーマーチャレンジ隊」の取り組み

県内のJAと共同で、生産者と消費者（組合員）が直接交流し、野菜の植え付け・栽培管理・収穫体験を通して、地元農業や食育、環境などへ理解が深まることを目的に取り組んでいます。将来的には、この取り組みから新規就農者や地域農業をサポートする人が生まれることを期待しています。

2017年度は4つのJAの畑でさつまいも、じゃがいも、人参の農作業体験をしました。



ファーマーチャレンジ隊（さつまいもの植付）

● 飼料米利活用の取り組み

家畜のエサも地産地消として飼料米の利活用に取り組んでいます。県内産の飼料米を「産直こめ育ちさくらたまご」の親鶏のエサに15%配合（もみ換算）して与え、循環型農業・環境保全を進めています。また、「産直平牧三元こめ育ち豚」や「産直鳥取こめ育ち牛」などの飼料米を与えた肉の取扱いも進めています。



産直こめ育ちさくらたまごの生産者による学習会

こめ育ち
さくらたまご平牧
三元こめ育ち豚鳥取
こめ育ち牛

● 産直・地場商品の取扱いの推進

商品案内書「ばくばくエコー」では県内商品や産直商品の取り扱いを積極的に行っています。店舗でも地元野菜コーナーを設けるなど地産地消の取り組みを進めています。



ばくばくエコー

● 2017年度産直商品の実績（宅配事業）

項目	2015年度	2016年度	2017年度
産直生産者数	65	66	66
延べ企画数	4,091	4,348	5,204
供給高（千円）	1,837,847	1,906,950	2,077,529

平和の取り組み

● 平和を願う取り組みをすすめました

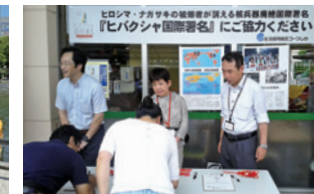
原爆投下、終戦となった夏に「平和」や「戦争」について知り、考える取り組みを継続して行っています。滋賀県内に残る戦争の傷あとを巡る「県内戦争遺跡めぐり」、日本生協連と広島県生協連が主催する「ピースアクションinヒロシマ」、三井寺の「原爆犠牲者慰霊・世界平和祈願法要」、



県内戦争遺跡めぐり



ピースアクション in ヒロシマ



ヒバクシャ国際署名



憲法学習会

● 大友剛 マジック&音楽&絵本ライブ

音楽や絵本を家族で楽しむことを通して命や人の大切さを感じてもらおうと、2015年から絵本や音楽のコンサートを開催しています。2017年度は「ねこのピート」や「絵のない絵本」で人気の大友剛さんを招いて、石部文化ホールで開催しました。



マジック&音楽&絵本ライブ

● 世界の子どもたちの未来のために

【書き損じハガキ回収キャンペーン】

民間の国際協力団体『特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド』が取り組んでいるもので、書損じハガキや切手・商品券などを集め、換金して飢餓の無い世界を創るための活動に活かしています。コープしがは2013年度から取り組みに参加し、2017年度は3,565,442円の換金額となりました（5年間の合計で約1,933万円）。バングラデシュ・ウガンダ・ベナン・ブルキナファソの栄養改善、識字率向上などの財源として生かされます。

【ユニセフ募金】

2017年度ユニセフお年玉募金などに4,044,771円をお寄せいただきました。このうち100万円を指定募金として「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プログラム」に送り、残りを一般募金として送り、世界各地のユニセフ活動に活用されます。

【ロヒンギャ難民募金】

2017年8月25日以降、暴力から逃れるために、ミャンマーのラカイン州からバングラデシュに逃れてきたロヒンギャ難民は60万人以上。その半数以上を占める子どもたちが、危険にさらされています。

コープしがは日本ユニセフ協会が実施する「ロヒンギャ難民緊急募金」の取り組みに応え、組合員からの募金2,291,260円をユニセフに送りました。



©UNICEF/UN120414/Brown

さまざまな組合員の参加の場

● ぱくぱくパーティー

「ぱくぱくパーティー」は、ご近所、友達、職場、ご家族などで生協が無料でお届けする商品を囲んで、気楽に楽しくおしゃべりしてもらう取り組みです。おしゃべりの中からくらしの困りごとや生協への期待などを「ぱくぱくメモ（報告書）」として出してもらい、生協の方針づくりや業務の改善などにいかしていきます。

2017年度は5,772カ所で取り組まれ約18,000人の参加者となりました。



ぱくぱくパーティ（つどい型）



ぱくぱくメモ



ぱくぱくメモの理事会で読み込み

● チーム活動・ひろば活動

チーム活動は、組合員が地域の中様々な人たちや仲間たちと一緒に自由で柔軟な発想で、取り組むことができる活動です。ひろば活動は、「商品・環境・福祉・平和・子育て・

消費者力」などのくらしのテーマに沿って、自主自発的に企画し、参加者を募って取り組む活動です。どちらも、組合員自らの「想い」を実現することを生協が応援する制度です。



チーム活動（ほっこり茶話会）



チーム活動（常ノ浜子供会）



ひろば活動（トマトちゃん・夏休みちくわづくり）



ひろば活動（手話講座・手で話そう）

● コープ倶楽部

コープ倶楽部は食、子育て、環境のことなど身近なくらしのテーマについて1年間かけて、楽しくおしゃべりをして、ちょっとしたくらしの知恵を教え合ったり、新しい発見、新しい友達ができたりする“場所”です。コープ倶楽部コーディネーターのサポートで、参加者は気軽に自分の意見を言うことができると好評です。2017年度は30会場で開催し372人の参加がありました。



コープ倶楽部（守山市民ホール会場）



コープ倶楽部（婦人会館会場）

● 地域委員会

地域の組合員に最も近い組合員活動組織です。コープしがの方針を受けて、地域の組合員の声や話し合いの中から具体的な活動に結び付けていきます。様々な視点から、地域の課題に即した行事企画をすすめます。



愛宕町地域委員会（食品表示学習会）



東近江市西地域委員会（コープラボ見学）

「食」を大切にする活動

ラブコープキャンペーンの取り組みで、コープ商品のおいしさと良さを知り、生産者と交流し、食育を学ぶ取り組みを継続的に進めました。

● たべる*たいせつ親子クラブ

コープしがが大切にする食育の実践として、家庭で子供たちにのぞましい食生活・食習慣が育まれるように、食に関する学習や調理実習を親子で行いました。「食品を見分ける」「魚のさばき方」などをテーマに、買い物体験、栄養バランスを考えた食事、野菜の収穫体験などを行いました。



親子クラブ（しがベジを食べよう）



親子クラブ（もりやま店）

● 県立大とコラボで食事バランスチェック

滋賀県立大学 生活栄養学科“食育推進隊”の学生に協力いただき、楽しく簡単に食事バランスがチェックできる「SATシステム」を使って食事バランスのチェックを行いました。骨密度の測定もあり、学生から一人ひとりに食事のアドバイスも行いました。



食のバランスチェック



● 産直交流企画を各エリアで開催

コープしがの産直＝「産地直結」を、生産者と組合員が互いに顔が見える交流を通して理解を深める取り組みを、各エリアごとに工夫を凝らし組合員が中心となって開催しました。



産直交流企画（第4エリア）



産直交流企画（第7エリア）

● コープ知ってねぱくぱく試食会を50会場で開催

組合員に生協商品の良さを知ってもらうために、生産者・メーカーに来てもらって直接説明を聞き、美味しさを確かめ、商品づくりへの想いを知る学習会を前年度に引き続き県内各地で開催しました。



ぱくぱく試食会（あかね会館）



ぱくぱく試食会（東近江センター）

● 商品大交流会

2017年度は商品大交流会を、近江八幡市と高島市のホテルを会場に2回開催しました。毎回50以上の生産者・メーカーに出店いただき、組合員とその家族・友達があわせて1,500名参加しました。いろいろな商品を試食して、多くの生産者と話して商品や生産者との信頼関係が深まりました。笑顔がふれる楽しい交流会です。



秋の商品大交流会



春の商品大交流会

さまざまな環境活動

コープしがでは「びわ湖を大切にすること」を育む活動を「びわこ＊たいせつ」活動として、びわ湖の水源を守る「コープの森」の整備活動や「湖岸清掃ウォーク」など、事業と活動の両面で環境の取り組みを進めています。2017年度はびわ湖の湖岸に繁茂する特定外来水生植物であるオオバナミズキンバイの駆除体験やコープの森の再生を目指す「どんぐりプロジェクト」の追肥体験、びわ湖の固有種ビワマスの稚魚の放流体験など多様な取り組みを行いました。

● びわ湖岸周辺清掃活動

毎年9月第1土曜日を「コープしがびわ湖の日」として、実施しているびわ湖岸の清掃活動。2017年度はにおの浜（大津市）に約450名が参加。夏休み期間中、多くの観光客で賑わった湖岸の清掃活動を行いました。



びわ湖ホール裏の広場に集結し、清掃ウォークにスタート



きれいに見えた湖岸から空き缶やペットボトルなどが回収された

● ニゴロブナの放流とオオバナミズキンバイの駆除体験（草津市/烏丸半島）

岸辺に少し群生する程度と見えたオオバナミズキンバイも根こそぎ駆除するのは思った以上に変な作業。湖面に広がったオオバナミズキンバイは大型の機械で駆除できて

も湖岸に広がったものは人の手に頼らざるを得ず、繁殖力の強さや在来生物への影響を実感しました。

駆除の終わった湖岸からニゴロブナの放流をしました。



湖岸に群生するオオバナミズキンバイ



1時間あまりで網袋が一杯に



ニゴロブナの放流

● 「コープの森」森林保全の取り組み “散歩しながら、見つけよう”森の宝

「コープの森」を通じて森の自然に親しみ、びわ湖と森の関わりを学ぶ場として開催。身近な生活がびわ湖につながっていることを知り、森を大切にしていこうために出来ることを考えます(参加者)



松ぼっくりを使った工作教室



紙芝居から森の営みを学ぶ

● コープの森余呉 森林整備ボランティア

通算10回目となった「コープの森余呉」の森林整備ボランティア。整備作業は間伐を終え、山に作業道を切り拓く取り組みを進めています。回を重ねる中、頂上への到達も見通せるまでになり2017年度は春と秋の作業で約140mの作業道を切り拓きました。



下草を刈ってルートを設定



作業道の崩落を防ぐため杭を打つ



振り返ると切り拓いた道が

● コープの森あぶらひ どんぐりプロジェクト肥料まき体験会

松食い虫被害により皆伐した松林を広葉樹のクヌギに転換する森づくりとして始めた、コープの森あぶらひどんぐりプロジェクト。昨年の植樹から1年を迎え、大きく育つことを願って肥料まき体験を行いました。12～13年後にはどんぐりの実を付けるまでに成長します。



昨年春に植えたクヌギの根元を囲むように肥料を撒いていく



自分たちが育て、植えた苗木を発見。風雪に耐えた苗木に愛おしさが…。



コープの森あぶらひに根付いたクヌギ

● ビワマスがわかれば、びわ湖がわかる! - ビワマスの学習と試食・放流体験 -

自然環境とびわ湖の固有魚の関係についてビワマスをテーマに体験学習を行いました。2017年は2度にわたる台風被害で、養殖のためのビワマスの採卵は例年の半分

程度に減ったそうです。クイズを中心にビワマスとびわ湖の環境を学んだあと、伝統食「アメノイオご飯」の試食とビワマスの稚魚の放流体験を行いました。



“ビワマスがわかればびわ湖がわかる”をクイズで学ぶ



初めて食べるびわ湖の伝統食「アメノイオご飯」と「スジエビのかき揚げ」



約5cmに成長したビワマスの稚魚の放流体験

● CO₂削減ライトダウンキャンペーン

夏至(6/21)とクールアースデー(7/7)に夜間の照明を消して地球温暖化防止を考える取り組みです。コープゼゼ店、コープもりやま店、野洲本部事務所等でサイン灯や事務所の照明を消し、10.848kgのCO₂を削減しました。



コープゼゼ店もサイン灯を消して参加

● 「山を活かす、山を守る、山に暮らす 交流会2017」への出展参加

森林山村地域の豊かな自然や文化を発信し、森林山村と都市圏の人々の交流を図る、交流会に出展参加。「コープの森」づくりの取り組みについてパネル展示を中心に来場者や各地の森林組合、NPO等との交流を行いました。



多くの森林関係者が出展。コープの森づくりのパネル展示と積み木遊びの体験コーナーを運営



木のぬくもりを感じる、素材を活かした積み木。カタチは1種類だけだが組み合わせ一つで様々な作品ができる。

● 商品の利用を通して環境に貢献する活動

滋賀県産の産直米（利用登録分）の利用量や、CO・OP洗剤の利用点数に応じた金額を「マザーレイク滋賀応援基金」に寄付する取り組みを継続しています。環境に配慮した商品利用でびわ湖の環境保全にも生かされます。また、沖縄恩納村産もずくの利用点数にあわせた金額を、沖縄のきれいな海を守る「サンゴ再生もずく基金」に寄付する取り組みにも参加しています。

● 2017年度寄付金額

寄付先	対象商品	利用数(量)	寄付金額
マザーレイク滋賀 応援基金	産直米登録利用	361,246kg	361,246円
	CO・OP洗剤	67,592点	67,592円
サンゴ再生もずく基金	沖縄恩納村産もずく	65,201点	65,201円
合計			494,039円

事業活動における環境報告

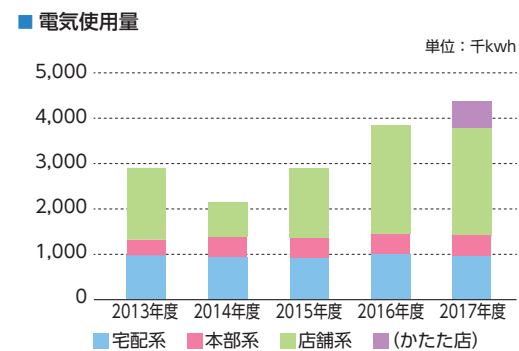
コープしがは「2020年に向けた新たな環境政策」に基づき、事業と活動の両面で地球温暖化防止や自然環境の保全、廃棄物の削減などの取り組みを進めてきました。ISO14001の認証は返上しましたが、「環境マネジメントシステム」を独自運用して環境管理に取り組んでいます。

● エネルギーの効率的な使用とCO₂排出量の削減

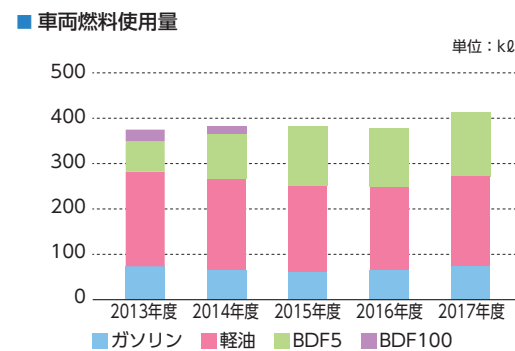
[エネルギーの効率的な使用]

エネルギー使用では電気と車両燃料が大きなウエイトを占めており、継続的に削減を進めています。2017年度の電気使用量の目標は新設のコープかたた店を除き前年度維持を目標に取り組み、前年比98.2%と削減することができました。ただし、コープかたた店を含めると前年比14%の増加となります。

車両燃料はガソリン使用量の目標を前年度維持として取



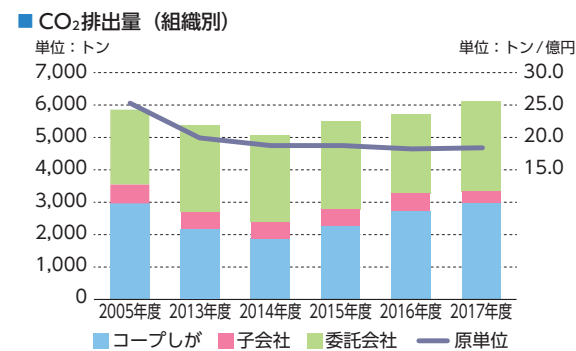
り組みましたが、東近江市のおむつ宅配便の受託事業による増車分の年間稼働などがあり、前年比107.0%と超過しました。ディーゼル車燃料の内42.0%は廃食用油を原料としたBDF燃料を5%配合した「BDF5」で、その割合は年々増加しています。2017年度のBDF5を使用したことによるCO₂排出量の削減量は18.8トンとなりました。



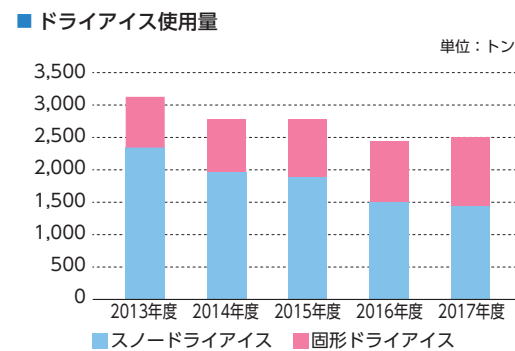
[CO₂排出量の削減の取り組み]

CO₂排出量はコープしがだけでなく関連する子会社、物流センター、委託配送も含めた管理を行っています。2005年度のCO₂排出量を基準に2020年に向けて削減することを目標としています。2015年以降3店舗目となる出店があり、2017年度のCO₂排出量は2005年度比4.4%の増加に転じました。ただし、総供給高は2005年度比42%増加しており、供給高1億円当たりのCO₂排出量（原単位）は、25.2トンから18.5トンに低下しています。

※電気のCO₂排出係数は、2005年度時点の数値を2020年まで使用



CO₂排出量には含めていませんがドライアイスの使用量の管理も行っています。スノードライアイスの生成率の向上や、断熱効果の高い大型保冷箱の導入（2015年12月）でスノードライス使用量は減少していますが、2017年度は固形ドライアイスの使用量が増え前年比2.5%増となりました。



[再生可能エネルギーへの取り組み]

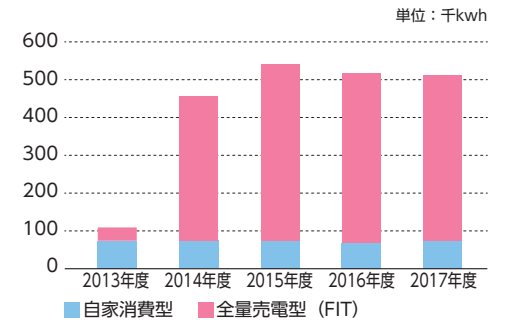
太陽光発電設備は、設置施設で全量使用する自家消費型6カ所70kwと、固定価格買取制度（FIT）に対応する4カ所446kwとなっています。2017年度の発電量は合計で51.3万kwで、前年比99.0%と若干減少しました。この発電量はコープしが電気使用量の11.7%に当たります。（売電金額は1,581万円でした）

[環境に配慮したコープでんきの普及]

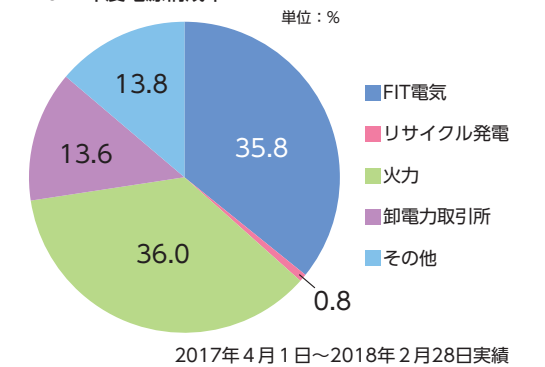
2016年4月の電力小売りの自由化を受けて、「コープでんき」の取り扱いを始めました。再生可能エネルギー（FIT電気）による電気の割合が多く、家計負担も軽減されるコープでんき加入者は2017年度4,068人増え、8,414人となりました。供給電力量は前年の5.38倍、2,954万kwh、1軒当たり月間使用量は441kwhでした。

- ・当生協がFIT電気を調達する費用の一部は、コープでんきのご利用者も含め、電気をご利用の全てのみなさまから集めた賦課金により賄われており、この電気のCO₂排出量については、火力発電なども含めた全国平均のCO₂排出量を持った電気と同等として扱われます。
- ・卸電力取引所とその他の電気には、水力、火力、原子力、FIT電気、再生可能エネルギーなどが含まれています。
- ・他社から調達している電気の一部で発電所が特定できないものは「その他」の扱いとしています

■ 太陽光発電発電量



■ 2017年度電源構成率



● 廃棄物の削減とリサイクル活動

[事業活動による廃棄物の削減]

コープしがでは、事業活動から出る一般廃棄物を食品廃棄物とそれ以外に分別し、店舗から出る食品廃棄物は飼料に再生し有効活用しています。産業廃棄物の廃プラ類は、有価物として売却できるものは分別・減容加工して再生原料として販売しています。再生原料とならないものは、処理業者に出しRPF（廃棄物固形燃料）に加工して有効活用しています。それ以外に分別されるものは、当該行政の処理プラントで焼却処分となります。

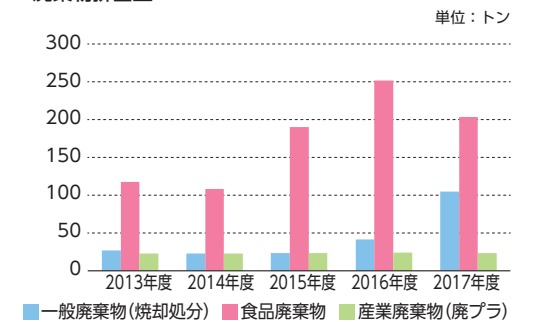
2017年度はコープかたた店がオープンしたことにより廃棄物総量が前年比4.4%増えました。また、青果産直センターの機能が物流センター内に併設されることとなり、対応行政が変わったことにより、食品廃棄物のリサイクルが難しくなり焼却処分が多くなりました。

[組合員からのリサイクル回収活動]

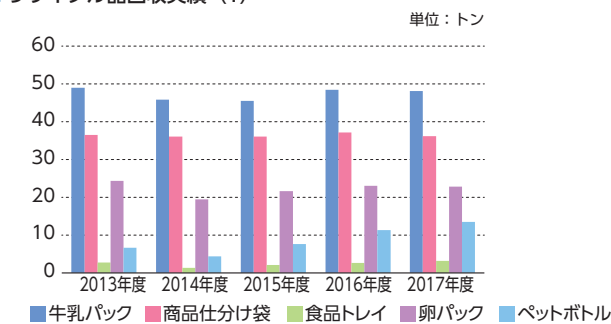
コープしがでは宅配や店舗事業で商品包材などで組合員に供給した容器包装や、商品案内書は、回収の呼びかけを行い、資源としてリサイクルを行っています。2017年度はコープかたた店のオープンもあり店舗回収が中心となる食品トレーとペットボトルは前年より増えました。宅配回収

の商品案内書の回収量は増えましたが、牛乳パック、商品仕分け袋、卵パックの回収量は若干減少しました。回収率は、商品案内書が前年より向上し77.5%、商品仕分け袋は若干低下して32.9%でした。

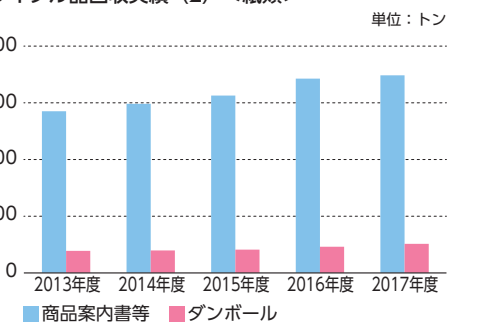
■ 廃棄物排出量



■ リサイクル品回収実績（1）

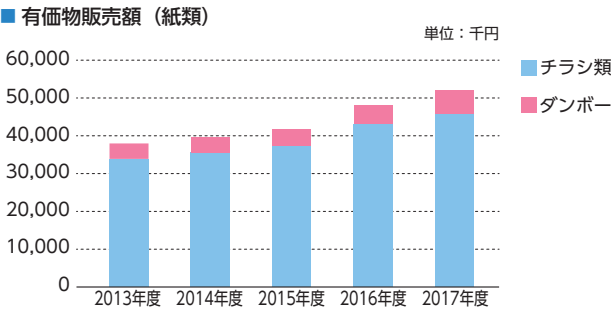


■ リサイクル品回収実績（2）＜紙類＞



【リサイクル事業】

組合員から回収したリサイクル物や、宅配事業センター、店舗、物流センターから出るダンボール、ストレッチフィルム、発泡スチロールなどは、近江八幡市のAZ-COM物流センター内の「リサイクルセンター」に集め、分別や減容処理をして、再生原料として売却するリサイクル事業を行っ



● 環境に配慮した商品の取扱い

【県内商品の取り扱いを増やし地産地消の推進】

地産地消の推進は地域経済の活性化とともに、輸送距離が短くなり（フードマイレージの減少）CO₂排出量の削減にもつながります。宅配では、コープしが独自企画の「ぱくぱくエコ」で滋賀県産商品の延べ企画数を前年より3.5%増やすことを目標にしましたが、天候不順の影響等で前年より3.6%減少し2,843企画に留まりました。店舗では滋賀県産農産物の供給高を前年比5%増やす計画で取り組み、コープかたた店のオープンもあり前年比13.7%増の6,481万円となりました。

【グリーン購入の推進】

環境配慮製品を優先的に購入する「グリーン購入」は、コピー用紙と事務用品に区分して管理しています。コピー用紙はグリーン購入対象品の使用が定着しており、2017年度の対象品購入率は99.6%（金額ベース）となりました。事務用品は69.6%で昨年より4.1%向上しました。

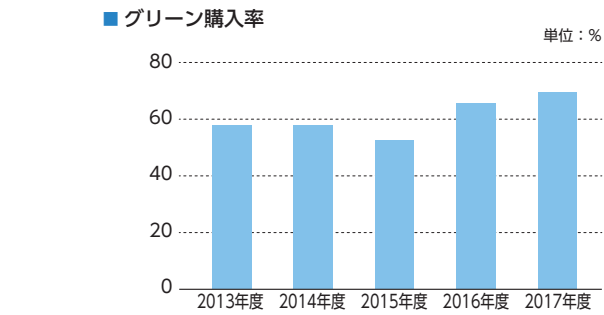
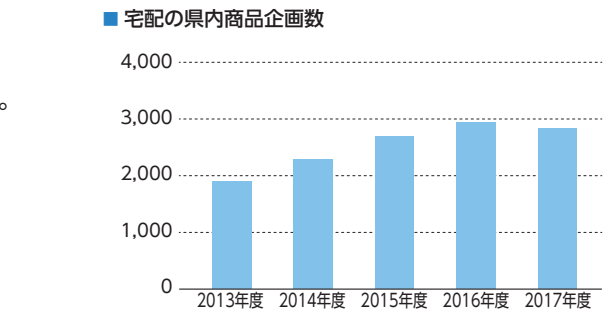
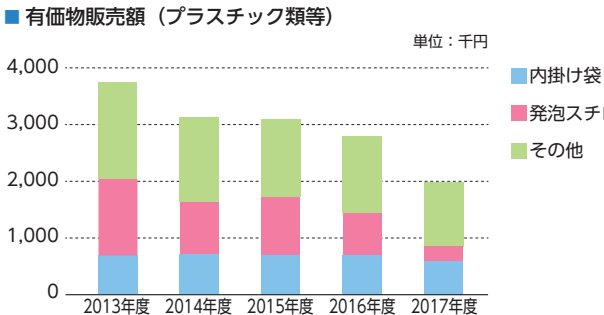
【環境配慮・エシカル商品の取り扱い】

エシカル（Ethical）は「倫理的」という意味です。地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買物」と言い、生協では積極的に取り組んでいます。2017年度はコープきんき企画の「エシカル」な商品の取り扱いが増えました。

● 2017年度エシカル商品実績（コープきんき分）

環境配慮商品	説明	利用点数	前年比
エコマーク認証	生産から廃棄を通して、環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品	288,931	119.2%
FSC認証	適切に管理された森林資源で作られた商品	190,017	130.8%
MSC認証	持続可能な漁業で獲られた水産物で作られた商品	223,328	157.4%
有機栽培	農業や化学肥料に頼らず環境負荷を減らして栽培しJAS認証を受けた農産物	120,161	80.5%
特別栽培	慣行栽培と比べ農薬・化学肥料の量を50%以下に減らし栽培された農産物	357,816	129.3%
レインフォレストアライアンス認証	熱帯雨林を守ることを目的に持続可能な農業を営む農園で育てられた商品	66,503	115.1%
コアノン・スマイルスクール	コアノンロール利用でアンゴラの学校づくりを支援する取り組み	91,366	106.7%
レッドカップキャンペーン	対象商品の利用で飢餓に苦しむ子どもたちに給食を支援する取り組み	214,211	94.8%
フェアトレード	発展途上国の農産物や商品を公正な価格で取引し作られた商品	3,822	61.3%
産地指定	主要な原料に産地や栽培方法が明らかな国産素材を使った商品	1,559,692	105.1%
国産素材	主要な原材料に国産素材を使っている商品	4,162,290	101.9%

ています。取扱量の多い商品案内書の回収量が増えたことから、総販売金額は5,422万円（前年比6.8%増）となりましたが、プラスチック類は販売単価が大幅に下がったことがあり販売額は低下しました。



コープしがの概要

（2018年3月20日現在）

名 称 生活協同組合コープしが
設 立 1993年3月21日
滋賀県内4生協が合併して発足。
（大津生協・湖南生協・東部生協・北部生協）
本 部 滋賀県野洲市富波甲972番地
TEL 077-586-1112（代表）
理 事 長 西山 実
専務理事 白石 一夫
組合員数 18万8,088人
加 入 率 33.3%（滋賀県563,865世帯）
出 資 金 112億9,787万円
供 給 高 331億4,847万円
（内訳） 宅配事業 276億8,467万円
店舗事業 43億8,438万円
夕食宅配 2億9,920万円
エネルギー事業 7億8,021万円
職 員 数 正規職員 317人
専属職員 80人
嘱託職員 34人
定時職員 739人（正規換算296.0人）
※定時職員にアルバイト含む

コープしがの事業所・事務所一覧

本部・事務所・その他施設

本部	野洲市富波甲972
福祉ネットワークセンター ゆめふうせん	大津市真野5-33-25
草津事務所	草津市西草津2丁目1-1
ケアサポートセンターぽこ	大津市柳川2丁目11-25
ケアサポートセンターぽこ野洲	野洲市富波甲963-1

店舗

コープぜぜ店	大津市竜が丘1-1
コープもりやま店	守山市勝部3丁目15-30
コープかたた店	大津市衣川1丁目17-1



宅配事業センター

南草津センター	草津市笠山5丁目3-50
北大津センター	大津市真野5-33-25
草津センター	草津市上寺町カスリ281-1
中央大津センター	大津市国分2-226-22
甲南センター	甲賀市甲南町市原303-6
東近江センター	東近江市五箇荘清水鼻町153-6
長浜センター	長浜市西上坂町1020-1
彦根センター	彦根市竹ヶ鼻町224-1
高島センター	高島市新旭町新庄799

グループ会社

株式会社タクス	野洲市富波甲977
株式会社コープシステムサービス	近江八幡市長光寺町瓶割山95-4 (AZ-COMロジスティック滋賀内)
株式会社シガフードプロダクツ	甲賀市甲南町寺庄330
株式会社滋賀有機ネットワーク	近江八幡市長光寺町瓶割山95-4 (AZ-COMロジスティック滋賀内)

コープしがのグループ会社

株式会社タクス	組合員のくらし全般をサポートするために、生協では扱えない事業分野を担っています（損害保険、生命保険、旅行、宅建物取引など）
株式会社コープシステムサービス	青果を中心に高品質商品を届ける物流業務を担っています（産地パック品点検、原料加工業務、チケット仕分け・転送、店舗輸送元請など）
株式会社シガフードプロダクツ	精肉の生産、流通及び加工までを一元管理し、安全・安心・良質な肉を適正価格で安定供給します（牛豚肉のパック加工、畜産加工品の販売など）
株式会社滋賀有機ネットワーク	県内での産直農産物の産地づくり推進と、農産品の流通を担っています（穀類・野菜類・果物類の生産と加工。農作業及び農業経営の受託など）



<http://www.pak2.com/>



- 用紙:適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ:大豆油インキを含む植物油インキ
- 印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃棄に発生するCO₂をカーボンオフセット済
- CO₂排出量:310.2g/部